2017年度ヨーロッパ視察
報告書

飯盛 利康・福田まもる・中島まさひろ

平成29年7月16日（日）～21日（金）

- フィンランド（ヘルシンキ）
- ハンガリー　（ブダペスト）

～　ヘルシンキ　～

【 視察目的 】
環境に関しては非常に意識の高いフィンランド。その首都ヘルシンキにおけるゴミ処理方法を調査視察

【 視察項目 】
環境問題視察

【 視察日時 】
平成 29 年 7 月 17 日（月）9:00～11:00

【 視察先 】
HSY WASTE TREATMENT（HSYゴミ処理センター）

【 相手先情報 】
Sauli Kopalainen（広報担当）

【 現状と所見 】
北欧、中でも特に環境に関しては意識の高いフィンランド。自他共に認めるところであろう国である。
今回はヘルシンキにある大規模なゴミ処理センターを視察した。
ごみ処理方法は行政による回収と個々の持ち込みによるもので、フィンランドでは体積で料金が異なる。
木材は1㎥9€、ゴミ袋２００ℓは1€８０¢で回収している。
廃棄物処理に関しては5段階に区分・・・
① ゴミを出さない　② そのまま再利用　③ 原料・材料として活用　④ エネルギーとして活用
⑤ 最終的には埋め立て
・・・となっている。
旧埋立地は１９８７年に開始され、２００７年迄の２０年間で閉鎖、今は新しい埋立地に運ばれている。
その後、生ごみから有効活用したいというニーズが生まれ２００７年にコンポスト場とバイオマス施設を一緒にした複合施設が建設された。
出される廃棄物が水分を多く含んでいるので二種類に分け全体の三分の一がコンポストで三分の二がバイオマスに使用される。二週間くらい熟成させ臭い、水分、動物などを除去したのちに完成した堆肥は販売される。ここで出た汚水は下水処理を行うことにしており、非常に丁寧な行程に感心させられた。
その一方、各家庭においては分別処理が徹底できてない状況もあるそうで、共働き家庭が多く子供の世話などが大変でごみ処理まで気が回ってない事が現状。そのような点では本市でも同じではなかろうか。
今後、住民からの相談や住民への情報提供をしっかり行なわなければならないとの事である。
また埋め立て跡地の活用に関してはさほど目新しいものは見当たらず、学校・公園・農園等に積極的に転用している本市の方が有効活用できていると感じた次第である。

HSYゴミ処理センター	
センター外観	概況説明
車にて処理場を見学	コントロールセンター外観
コントロールセンター内	コントロールセンター内での説明
処理場内部	処理場にて

【 視察目的 】
ヨーロッパ屈指の観光都市ヘルシンキにおける街づくりについて、特に景観保全に関しての取り組みについて現地視察を行なった。

【 視察項目 】
街づくり視察（景観保全）

【 視察日時 】
平成 29 年 7 月 17 日（月）13:30 ~ 15:30

【 視察先 】
ヘルシンキ市内各所

【 相手先情報 】
現地ガイドによる説明

【 現状と所見 】
歴史的な中心市街は訪れる人々を魅了する街並みがある。
世界的に有名なヘルシンキ大聖堂や元老院広場をはじめ、その周辺は建物として景観保全されている場所が数多くある。近くには市庁舎や博物館があり、それらも建築当初からの外観を留めている。またすぐそばにはマーケット広場が港近くにあり、伝統的な食料品やお菓子、お土産物があったりと非常に賑やかな空間を演出している。
景観保護されている建物について市内でも５６箇所あり、ある一定程度の地域で保全されている所もある。街中の建築物については現在の建物（おおよそ８階建て）の高さまでしか建築する事が出来ず、街並みの保全も行なっている。当然、外観保全の為に原状復帰しか認められなかったりと厳しい制限がかけられているそうだ。
ヨーロッパの観光都市に関しては、やはり歴史的な建物の雰囲気を重用する都市が多いが、行政施策として取り組む事により一定程度の景観保全が図られている。一方でその地域、建物に住んでいる方々は建物を修繕するにも限度があり、負担が強いられているようにも感じる。
観光都市として、世界中からのお客様を受け入れるだけの街としての魅力を維持していく事は大事であるが、一方でそこに住まう市民の納得と理解も同時にバランスをとる事も非常に大事な課題と言えよう。
また中流家庭が集まる住宅街にも足を運んだ。ここでは地域で景観保護されており、商標も貼られてあった。家庭から出るゴミは家の敷地内に設置している大きなゴミ箱にストックするものとし、道路面つまり表からは見えない工夫をしていた。これも景観に配慮した地域づくりであろう。

ヘルシンキ市内

ヘルシンキ大聖堂	外観の景観保護
新築ビルにも高さ制限	港近くのマーケット広場
景観保護された住宅街	景観保護を示す商標
住宅敷地内に設置されたゴミ箱	景観に配慮した住宅街

【 視察目的 】
現在、本市が実施しているスタートアップ事業において、世界的にも先進的な取り組みを行なっているフィンランドでの支援事業を視察

【 視察項目 】
起業支援視察

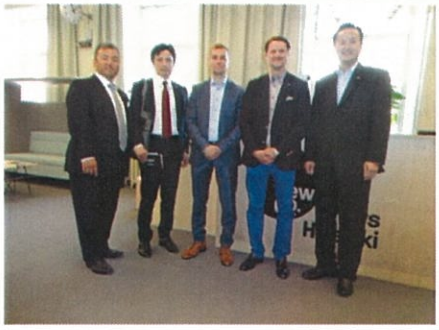
【 視察日時 】
平成 29 年 7 月 18 日(火)9:00 ~ 11:00

【 視察先 】
Newco Helsinki

【 相手先情報 】
・Head of Unit　　Ms. Tommo Koivusalo
・Startup-Ecosystem-developer　　Ms. Henrik Keinonen

【 現状と所見 】
ヘルシンキ市が設立したスタートアップ施設(組織)、newco(ニューコー)の視察を行った。
現在、福岡市とヘルシンキ市において覚書を締結し情報交換、起業者や事業アイデアのマッチングを行っている。本年６月には、本市スタートアップカフェを利用している創業希望者がニューコーとのビジネスマッチングの末、ヨーロッパの企業と提携し起業している。
今回の視察の中で、ヘルシンキ市がスタートアップにおいて２５年の歴史がある事、本市に似た環境がある事、若者率が高い事、外国人の創業希望者や留学、移住が増えてきている事、大学が周辺に多くあることで学生との連携がある事が分かった。そもそもヘルシンキ市のスタートアップには、当時大学生が始めたスラッシュというイベントが大きく影響している様だった。現在も続いているイベントだが、大学生が運営しており、世界各国から数万人を集める世界規模で認知されているスタートアップイベントに成長している。ヘルシンキ市としては当初、若者の引きとめ、失業対策、労働相談的役割があったようだ。しかしながら現在は、一般的に言われている開業後５年生存率４０％がニューコーでは８０％と高く、本市と似たゲーム産業やコンテンツ産業の集積により、前に述べた内政的目的というよりも経済成長に比重が変わってきているようである。
当然ながら、ニューコー利用者が創業希望者だけというわけではなく、既存企業のビジネスマッチング、他市や他国での経営相談等も行っている事は、本市のスタートアップ施策にも大いに参考になる取組みであった。また、開業後５年生存率についても、覚書締結において重要な連携、ノウハウになるものと期待できた。ニューコーの創業支援について面白い考え方があった。創業の中身をしっかりと吟味し、創業希望者とのコンサルティングを行っていた。支援ではなく、コンサルティングである。
例えば、創業者の希望を聞き具体の事業を見る。そこで、長期間の経営なのか、技術の連携なのか、そのものの売却なのかを提案するということだった。つまりは、長く経営する、出来ることが利用者にとって良い

のか、はたまた経済的価値を最大にして確定させる事で、また新たなステップにつなげるのかということである。ヘルシンキ市としてもニューコーとしても、どちらの結果でも公共の利益を見出している様であった。
当然ながら、長期の経営の公共の利益とは、雇用、納税、生産性などがあるだろう。経済価値の最大化においては、新しい技術、価値が生まれる事で、企業の注目、意識を向けて貰える。ビジネスマッチングの機会の増加だけでなく、ビジネスマンの滞在増、都市イメージのアップ、更には専門知識をもつ人が集まるとの事であった。その場合、失業者の増加を危惧したが、意外と価値確定の企業売却で完全失業者は多くないし、問題になっていないとの事であった。本市のスタートアップについても、まだまだ始まったばかりである。副次的効果になるかもしれないが、同じような価値を求めて行くべきではないかと感じた。フィンランドでの、細かな法人税や事業税の体系は残念ながら把握出来なかったが、経営での利益でも、売却益でも、本市にとって政策としての投資価値を見込める範囲での可能性を大きく感じた。

Newco Helsinki	
Newcoが入っている施設外観	施設内部
ヘンリック氏らから説明	施設内を見学
落ち着いたミーティングルーム	皆さんと記念撮影
	

～　ブダペスト　～

【 視察目的 】
本市で2021年に開催される『世界水泳選手権大会』の事前調査として会場視察ならびに実行委員会とのヒアリングを通じ、本市施策の材料とするもの

【 視察項目 】
2017年世界水泳選手権ブダペスト大会　会場施設視察及び運営等調査

【 視察日時 】
平成29年7月19日(水)9:00～16:00

【 視察先 】
・メイン会場(競泳・飛込み) ： ドゥナ・アリーナ(Duna Arena)
・シンクロナイズド・スイミング会場 ： 市民公園内仮設プール(City Park - Városliget Lake)
・ハイダイビング会場 ： バチャーニュ広場仮設飛込台(Batthyany Square Danube Embankment)

【 相手先情報 】
2017年世界水泳選手権ブダペスト大会組織委員会
・Executive Director　Ms. Eva Szanto
・General Advisor　Ms. Eniko Vastagh
・Sports Director　Mr. David Szanto
・Marketing Director　Mr. Gabor Karpati

【 現状および所見 】
ブダペスト大会については、ハンガリーとして史上最大のスポーツイベントであるため、国家行事として行っている。将来のオリンピック招致も視野にいれていることもあり、水泳のほかにも柔道の世界選手権も開催している。
そのため、2001年の世界水泳と比較し、大会の規模は大きく、VIP対応も充実していた。
福岡大会で世界水泳のスタンダードとなった仮設プールは、シンクロナイズド・スイミング会場とハイダイビング会場で使われている。
メイン会場は、オリンピックを見据えて新設されたアリーナで、仮設で増席されていた。
各会場には、装甲車を配備してマシンガンを携帯した警察による警備がなされており、テロ対策に万全を期していた。
また、各会場やオフィシャルホテルにはボランティアを積極的に活用していた。
福岡大会に向けては、今大会を参考にしっかりと準備し、会場計画や運営計画を作り込んでいく必要がある。

シンクロナイズド・スイミング会場

英雄広場の様子	会場の様子
大型ビジョン	背景の城
本部・選手控室	会場案内

組織委員会へのヒアリング

メイン会場

飛込み台

５０ｍプール

VIPゾーン

練習用プール

ファンゾーン

ハイダイビング会場

仮設飛込み台

背景となる国会議事堂

2017年度　ヨーロッパ視察

≪ 行程表 ≫

月・日	都市名	時 刻	交通機関	内 容
7/16 （日）	（ 集 合 ） 福岡発 ↓ ヘルシンキ着	8:00 10:00 14:25	ﾌｨﾝｴｱｰ AY-76	
7/17 （月）	ヘルシンキ	9:00～11:00 13:30～15:30	専用車	環境問題視察 街づくり視察
7/18 （火）	ヘルシンキ ヘルシンキ発 ↓ ブダペスト着	9:00～11:00 16:45 18:05	専用車 ﾌｨﾝｴｱｰ AY-76	起業支援視察
7/19 （水）	ブダペスト	9:00～16:00	専用車	第17回世界水泳選手権 ブダペスト大会 （運営・施設視察）
7/20 （木）	ブダペスト発 ↓ ヘルシンキ着 ヘルシンキ発 ↓	11:40 15:00 16:30	ﾌｨﾝｴｱｰ AY-754 ﾌｨﾝｴｱｰ AY-75	
7/21 （金）	福岡着	8:00		